

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局(43) 国際公開日
2004 年 7 月 29 日 (29.07.2004)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2004/062427 A1

(51) 国際特許分類⁷: A45D 44/22, A61F 13/02

(21) 国際出願番号: PCT/JP2004/000196

(22) 国際出願日: 2004 年 1 月 14 日 (14.01.2004)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願2003-006455 2003 年 1 月 14 日 (14.01.2003) JP
特願2003-108488 2003 年 4 月 11 日 (11.04.2003) JP

(71) 出願人(米国を除く全ての指定国について): 株式会社フリージア (FREESIA CO.,LTD.) [JP/JP]; 〒5941144

(52) 発明者; および
(75) 発明者/出願人(米国についてのみ): 松井 英樹 (MATSUI, Hideki) [JP/JP]; 〒5941144 大阪府和泉市テクノステージ3-1-11 大阪府いすみテクノサポートセンター2F RF 206 Osaka (JP).

(72) 発明者; および
(75) 発明者/出願人(米国についてのみ): 松井 英樹 (MATSUI, Hideki) [JP/JP]; 〒5941144 大阪府和泉市テクノステージ3-1-11 大阪府いすみテクノサポートセンター2F RF 206 株式会社フリージア内 Osaka (JP).

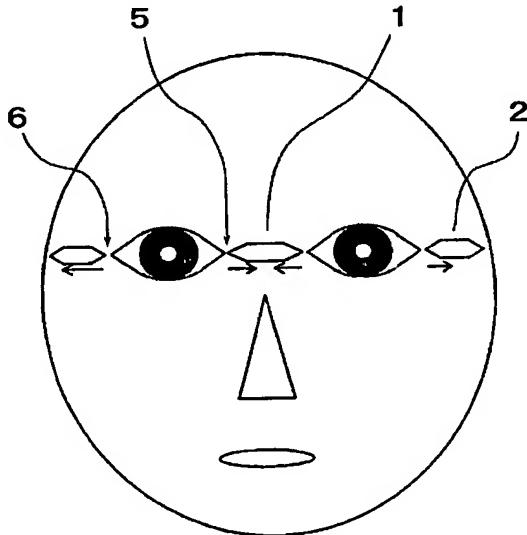
(74) 代理人: 野村 泰久 (NOMURA, Yasuhisa); 〒1020084 東京都千代田区二番町 8 番地の 20 二番町ビル Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR,

[続葉有]

(54) Title: STRETCH TAPE

(54) 発明の名称: ストレッチ・テープ



WO 2004/062427 A1

(57) Abstract: A cosmetically eyelid-reshaping stretch tape is stuck to an area close to the inner canthus between the eyes or stuck to an area close to the outer canthus laterally of the eye, so as to stretch the skin of the eyelids to provide slit, large, bright eyes. The tape is given such an angle as to point at the inner or outer canthus. Further, a cosmetically nose-reshaping stretch tape is in inverse U- or V-shape and is stuck with the apexes of the inverse U- or V-shape positioned on the upper nose area between the eyes and with both legs of the inverse U- or V-shape positioned on both sides of the middle portion of the nose, thereby stretching the middle portion of the nose toward the head. Further, the cosmetically reshaping stretch tape is stuck to the skin surface to stretch and smooth wrinkles in the skin surface and fix them in that smooth state. The tape is made by coating a base material in the form of a urethane non-woven fabric with an acrylic adhesive material in a thick layer of not less than 35 g/m².

(57) 要約: この発明の臉整形用ストレッチ・テープは、目と目の間の目頭に近接して、もしくは目の横の目尻に近接して貼り付けられ、臉の皮膚を伸張することにより目を切れ長にパッチリと整形する。前記テープは、目頭もしくは目尻を指し示すような角度を付けられる。また、この発明の鼻整

[続葉有]



BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG,

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

形用ストレッチ・テープは、逆U字形状、もしくは逆V字形状をなし、該逆U字形状、もしくは逆V字形状の頂部を目と目の間の鼻上部に、該逆U字形状、もしくは逆V字形状の両脚部を鼻中腹部の両側部にして貼り付けることにより、鼻中腹部を頭部方向に引っ張る。また、この発明の美容・整形用ストレッチ・テープは、皮膚の表面に貼り、皮膚の表面の皺を引っ張って伸ばし固定するストレッチ・テープにおいて、該テープは、ウレタン不織布からなる基材にアクリル系粘着材を35 g/m²以上の厚塗りで塗布する。

明 細 書

ストレッチ・テープ

5 技術分野

この発明は、顔面の整形を目的に顔面に貼り付けられて用いられるストレッチ・テープに関し、特に瞼の整形、および鼻の整形に適したストレッチ・テープや目元、瞼の上、頬等の美容・整形を目的に皮膚の表面の皺を引っ張って伸ばし固定するストレッチ・テープ、およびこれを用いた美容・整形方法に関する。

背景技術

日本人は目頭や目尻が被る傾向にあり、従来、目元をパッチリさせ、切れ長の目にするため、目頭や目尻を切開することが行われている。しかし、目頭や目尻の切開は手術の手間とリスク、及び費用がかかるため、それほど多くは行われていない。

また、従来鼻を高くするため、同様に整形手術がおこなわれているが、これも同じく手間とリスク、及び費用がかかる欠点がある。特表 2002-518306号公報、特開2002-239017号公報、特開2002-125992号公報、等には、鼻孔を広げるためのテープが開示されており、特開2002-345870号公報には鼻筋矯正具が開示されている。また、特開平10-304935号公報には二重まぶた形成用テープが、特開平9-143026号公報には顔皺矯正用貼付具が、特開平9-168424号公報にはしわ、たるみ矯正具が開示されている。

しかし、これらのテープは、目頭を開く効果はなく、また鼻をすっきり高くするための効果も十分でないという欠点がある。

従って、この発明は、手術等を行うことなく、顔面の所定の場所にテープを所定期間（3ヶ月～1年）、繰り返し（主に、就寝中）貼ることに5より、目頭を開くことや、鼻をすっきり高くすることを目的とする。

また、加齢していくと顔面の肉や皮膚がたるみ、下方向に落ちてくる。その結果年老いて見えるので美容整形手術で顔の皮膚や筋肉を引っ張り上げるフェイスリフト手術が若返りの手術として人気がある。

皮膚の皺、たるみを伸ばすための粘着テープが特開2002-452
10 32号公報、実用新案登録第3090209号公報、特開平10-23
4469号公報等により公知である。しかし、該特開2002-452
32号公報のものは、形状がバンドエイドと同じものであり、貼る場所
も首の側方しか記載されていない。実用新案登録第3090209号公
報や特開平10-234469号公報のものも顔面に貼るとのみ記載さ
15 れており、場所が特定されておらず、その形状も特徴がない。特開平1
0-194962号公報、特開平10-23924号公報、特開200
1-335430号公報には皺伸ばしテープが開示されているが、これ
らはいずれも皺の上に貼るものであって、貼った後、自然に皺が元の状
態に復帰してしまう欠点がある。

20 また、特開2002-229014号公報には、顔の側面の髪を引っ
張るものが、特開平9-168424号公報、実用新案登録第3043
517号公報等には顔の側面を帶び体で引っ張るものが開示されている。
しかし、これらも装着が面倒とか、装着器具が煩わしいといった欠点が
ある。

25 一般的に、シワができる原因と予防には以下のことがいえる。

(1) シワができる3つの原因

①『紫外線』… 紫外線による光老化によるもので、光老化とは紫外線を長年浴びると肌が老化する事である。紫外線では小ジワも深いシワも出来る。

5 ②『乾燥』… 肌が乾燥して出来るのは目の周りや口元のシワである。乾燥では細かなシワが出来る。しかし乾燥で出来てしまう細かなシワもそのままにしておくとだんだんと深くなってしまう。

③『弛み』… 老化により額全体及び眉毛周辺の皮膚の弛みによってできる。目尻の笑いジワなどがある。

10 (2) 目のまわりのシワを防ぐ予防方法

目の周りの皮膚は他の部分の皮膚より薄く、皮脂分泌がほとんどないので、乾燥しやすく皺も出来やすい場所である。

①『保湿』… 刺激が少なくて水分と栄養を十分に補給するアイテムを使うようにするとよい。

15 ②『マッサージ』… アイクリームなどでやさしくマッサージしたり、まぶたのまわりを指で軽く押えるようにしたりする。

以上のように予防しても老化による弛みを防ぐことは不可能である。

(3) シワをとる従来の方法

細かいシワは化粧品やマッサージで肌に張りを与えて和らげることは可能であるが、深いシワは化粧品では元に戻らない。本格的な美容整形手術が必要となる。

①『フェースリフト手術』… 老化による目以上の顔にできた皮膚の弛み、眼裂縮小、眉毛の垂れ、笑いジワ、横ジワ、眉間ジワなどについて、効果的なのは前額の皮膚を切開後引っ張り上げる手術である。

25 ②『コラーゲン注入』… シワのある部分の皮下にコラーゲンを注入し、

肌に張りを持たせてシワを目立たなくする方法。

③『ピーリング』… ケミカルピーリングで古い角質を取り除くと新しく軟かい角質細胞が形成されることにより、美しいお肌に生まれ変わる。しかし、深く刻まれたシワをとることはできない。

5 以上の方法は、費用と時間が掛かり、また手術等の不安や煩わしさ等の欠点がある。

従って、本発明は、皺の周辺に貼り、皺の周辺から引っ張って皺を伸ばした状態で固定するストレッチテープ、及び該ストレッチ・テープを用いた美容方法を提供することを目的とする。

10

発明の開示

この発明の臉整形用ストレッチ・テープは、目と目の間の目頭に近接して、もしくは目の横の目尻じりに近接して貼り付けられ、臉の皮膚を伸張することにより目を切れ長にパッチリと整形することを特徴とする。

15 さらに、前記テープが目頭もしくは目尻を指示するような角度を付けられており、また前記テープが巾 5～15 mm、長さ 15～30 mm であり、前記角度が 20～60 度であることを特徴とする。

あるいは、この発明の鼻整形用ストレッチ・テープは、逆 U 字形状、もしくは逆 V 字形状をなし、該逆 U 字形状、もしくは逆 V 字形状の頂部 20 を目と目の間の鼻上部に、該逆 U 字形状、もしくは逆 V 字形状の両脚部を鼻中腹部の両側部にして貼り付けることにより、鼻中腹部を頭部方向に引っ張ることを特徴とする。

さらに、前記テープの巾 5～20 mm、前記逆 U 字、もしくは逆 V 字形状の 1 辺の長さが 15～35 mm であり、前記前記逆 U 字、もしくは逆 V 字形状の開き角度が 0～120 度であることを特徴とする。

あるいは、この発明の小鼻整形用ストレッチ・テープは、 略三角形状をなし、該三角形状の中心を小鼻上部に貼り付けることにより、小鼻の軟骨を刺激し、小鼻を小さくすることを特徴とする。

さらに、前記テープの巾 5 ~ 40 mm、前記三角形状の底辺の長さが 5 35 ~ 50 mm であり、前記三角形状の頂点の開き角度が 0 ~ 120 度であることを特徴とする。

また、この発明の美容・整形用ストレッチ・テープは、皮膚の表面に貼り、皮膚の表面の皺を引っ張って伸ばし固定するストレッチ・テープにおいて、

10 該テープは、ストレッチ性のある基材に粘着材を 35 g / m² 以上の厚塗りで塗布したことを特徴とする。

さらに、前記テープは、ウレタン不織布からなる基材にアクリル系粘着材を 35 g / m² 以上の厚塗りで塗布したことを特徴とする。

さらにまた、前記テープが巾及び長さが 15 ~ 50 mm の大きさであ 15 って、該テープの皮膚を引っ張る端面の形状にアールを付けたことを特徴とする。

あるいは、この発明の美容・整形方法は、上記テープを用い、就寝時に、保湿・収斂パックを顔全体に塗ると共に、目元、瞼の上、頬等において皮膚の皺を該皺の周辺で引っ張って、伸ばし固定して上記テープを 20 貼り、上記保湿・収斂パックを翌日洗い流すことにより皮膚の皺を取ることを特徴とする。

図面の簡単な説明

第 1 図は、この発明の目的のストレッチ・テープの使用状態を示す図で 25 ある。

第2図は、第1図のストレッチ・テープの種々の形状を示す図である。

第3図は、この発明の鼻のストレッチ・テープの使用状態を示す図である。

第4図は、第3図のストレッチ・テープの種々の形状を示す図である。

5 第5図は、この発明の鼻の他のストレッチ・テープの使用状態を示す図である。

第6図は、第5図のストレッチ・テープの種々の形状を示す図である。

第7図は、この発明の皺伸ばしストレッチ・テープの形状を示す図である。

10 第8図は、第7図のストレッチ・テープの使用状態の拡大図を示す図である。

第9図は、第7図のストレッチ・テープの使用状態を示す図である。

第10図は、長方形のストレッチ・テープの場合の使用状態を示す図である。

15 第11図は、第1図の目のストレッチ・テープをたれ目整形に用いた場合の使用状態を示す図である。

第12図は、第1図の目のストレッチ・テープをつり目整形に用いた場合の使用状態を示す図である。

20 第13図は、第1図の目のストレッチ・テープをより目整形に用いた場合の使用状態を示す図である。

第14図は、第1図の目のストレッチ・テープをはなれ目整形に用いた場合の使用状態を示す図である。

第15図は、第1図の目のストレッチ・テープを目整形に用いた場合の他の効果を示す図である。

発明を実施するための最良の形態

以下、図面を参照しながら、本発明の好適な実施の形態について詳細に説明する。

(実施例 1)

5 第 1 図は、この発明の目頭 5、目尻 6 に貼り付けて、長期間（3ヶ月以上）主として夜間寝るときに連続使用することにより、図の矢印の方向に引っ張られて瞼の皮膚が伸び、目が切れ長でパッチリと整形するためのストレッチ・テープ 1、2 の使用状態を示す。そのストレッチ・テープ 1、2 の形状のいくつかの例を第 2 図に示す。第 2 図に示す如く、10 該テープは目頭もしくは目尻を指し示すような角度（円形や橍円形状を含む）を付けられる形状が、目頭や目尻に引っ張る力が集中するので好適である。

15 テープは、目頭を開く時はほぼ水平に張られる。目頭間は、両目頭を一枚のテープで張っても、2枚を個別に貼ってもよい。目尻も水平に張る方が目尻を水平方向に引っ張るので好ましい。

なお、本発明のストレッチ・テープは、たれ目やつり目の整形にも用いることができ、この場合は用途に応じて上記テープは斜め上方（第 1 1 図）や斜め下方（第 1 2 図）に向けて貼られる。また、この発明のストレッチ・テープは、より目やはなれ目の整形にも効果があり、この場合は上記用途に応じて目尻を外方向に引っ張ったり（第 1 4 図）、中央に引っ張ったり（第 1 3 図）する。

20 また、日本人の大部分は目頭に「蒙古ヒダ」がかぶっており、そのため二重瞼が目頭のところで終わっている（第 1 5 図（a））が、この発明のストレッチ・テープを用いると、該テープが「蒙古ヒダ」を引っ張り出すので、二重瞼が最後まで平行になる（第 1 5 図（b））効果もある。

上記第2図の目頭もしくは目尻を指し示す角度は20~60度が好ましく、該テープは巾5~15mm、長さ15~30mm位が大きさとして適当である。このテープを長期間（3ヶ月以上）主として夜間寝るときに連続使用することにより、目頭が自然に開く効果があり、目頭が開くことにより切れ長でパッチリした目となる。これは目頭を切開した効果と同じであり、特に手術等の苦痛を伴わず、しかも非常に安い費用で臉が整形される。

（実施例2）

第3図には、この発明の鼻に貼り付けて、長期間（1年以上）主として夜間寝るときに連続使用することにより、鼻の軟骨を刺激し、鼻筋がすっきりと高く整形されるためのストレッチ・テープの使用状態を示す。そのストレッチ・テープの形状のいくつかの例を第4図に示す。第4図に示す如く、逆U字形状、もしくは逆V字形状をなし、該逆U字形状、もしくは逆V字形状の頂部を目と目の間の鼻上部に、該逆U字形状、もしくは逆V字形状の両脚部を鼻中腹部の両側部にして貼り付けることにより、鼻中腹部を頭部方向（矢印方向）に引っ張る作用をなす。また、このとき、鼻腔も広がるので、該テープはイビキ防止やスポーツの呼吸補助の目的にも用いることができる。該テープは、巾5~20mm、1辺の長さが15~35mm位が大きさとして適当であり、また前記前記逆U字、もしくは逆V字形状の開き角度が0~120度であることが好ましい。ただし、顔面に張る時は逆U字、もしくは逆V字形状の両脚が鼻の側面に沿って張られることになるので、その開き角度は正面から見て30~45度になる。

なお、従来の特表2002-518306号公報に記載されるような鼻の上に貼り付ける鼻テープは、鼻を上部（顔の前面方向、すなわち顔

面に対して垂直方向)に持ち上げようとするものであるが、この発明の前記鼻テープは鼻を頭部方向に持ち上げようとするものであって、その引っ張る方向が60～90度異なる。

上記従来の鼻テープに比較すると、この発明の方が鼻孔を広げる効果は大きく、また鼻を縦方向に引っ張るので鼻筋をすっきりさせる点でも従来より効果が高い。

(実施例3)

第5図には、この発明の小鼻に部分に貼り付けて、長期間(1年以上)主として夜間寝るときに連続使用することにより矢印方向に引っ張り、10 鼻の軟骨を刺激し、小鼻が小さくなり鼻がすっきりと高く整形されるためのストレッチ・テープの使用状態を示す。そのストレッチ・テープの形状のいくつかの例を第6図に示す。第6図に示す如く、該テープの形状は三角形を中心とした形状で、三角形の頂点の角度は30～120度が好ましい。該テープは、巾5～40mm、底辺の長さが30～50mm15 位が大きさとして適当である。

(実施例4)

第7図(a)、(b)に本発明の皺伸ばし用ストレッチ・テープの平面図及び側面図を示す。

第7図(b)において、12は基材となるテープであり、揮水性、通20 気性を有し、伸縮率も人の皮膚に近いウレタン不織布を用いる。なお、該テープは、ウレタン不織布に限られず、その他のシリコンやウレタンなどの他のストレッチ性のある基材でもよい。第7図の粘着層13は、通常の粘着テープの場合の厚み(30g/m²の塗布量)に対して、本発明のストレッチ・テープにおいては35g/m²以上の厚塗りとなつ25 ている。また、前記テープが巾及び長さが15～50mmの大きさであ

って、第7図(a)に見られる如くテープの端面14はアールを付けられている。なお、テープの形状は端面にアールが付けられていれば第7図(a)の如く種々の形状11のものが考えられ、その他の形状でもよい。

5 第8図は、上記ストレッチテープを皮膚の表面に貼ったときの拡大図を示す。第9図に示す如く、上記テープ31は、夜寝るとき皺35の皺と直角方向の周辺の皮膚状に皺35を指等で伸ばした状態で貼りつけられる。従って、皺35はA方向に伸びた状態で固定される。なお、この時、上記のようにテープ31の端面にはアール14(第7図)が付けられているのでテープの端面における新たな皺の発生が防止できる。すなわち、上記テープの端面に角張った箇所があると引っ張り方向(第9図の矢印A)によって、該コーナーには皮膚表面に対してストレスが掛かり第10図に示すようにテープによる新たな皺36が発生してしまうので上記皺取りストレッチ・テープの場合、端面をアールにすることは重要である。また、第8図に示す如く、上記ストレッチ・テープを皺を伸ばすように皮膚表面に貼り付けた場合、該テープは伸びた状態で貼られるので、テープ内において内側方向(第8図の矢印A, B)の引っ張り力が働く。該引っ張り力は上記テープが貼られている箇所の皮膚表面を圧縮するので該皮膚表面に新たな皺が生じてしまう。これを避けるために本発明のストレッチ・テープの粘着層23は通常より厚塗りとなっている。該粘着層が厚いと粘着層には弾力があるのでテープの圧縮力を吸収して皮膚表面へストレスを与えない効果がある。すなわち、テープ22が圧縮しても該圧縮は粘着層23の変形となって吸収され、皮膚表面を圧縮することはない。このような構造は、特に皺伸ばし用テープにおいてテープにより新たな皺を発生させないためには重要なことである。

以下、本発明のストレッチ・テープを用いた美容・整形方法の例について説明する。

この発明の「テープリフティング整形法」は、メスも注射も使わず、就寝前に、肌に近い伸縮性と通気性を持ったストレッチ・テープで皮膚・筋膜・表情筋を引っ張ることによりシワを物理的に伸ばす。就寝中にリフティングした状態を繰り返して保つことにより、表情筋がゆっくり移動し目元のたるみやシワが改善される。さらに、新陳代謝により皮膚・筋膜・表情筋の細胞が入れ替わり、たるみやシワが伸びた状態が固定化される。リフティングされた部分に保湿成分を含んだ美容液やパックなどを使用するとさらに効果的である。「テープリフティング整形法」はホームケアで簡単に目元のたるみやシワ取りができる画期的な整形美容法である。

(1) たるみ、シワ取りメカニズと効果

①『表情筋の変形』… 表情筋とは、眼・鼻・口の開閉や耳を動かす筋のことで、それらは20数種類あり、それらが互いに協同的または拮抗的に作動して、「ひと」独特の複雑な表情を現す。顔以外の皮膚は筋肉とつながっておらず、筋肉の動きによって皮膚が動かされることはない。しかし、顔の皮膚と表情筋は一体となっており、表情筋の動きに従って顔の皮膚も動く。

笑うと目尻が下がったり、目尻にシワができたりし、怒ると目尻が上がり眉間にしわができるたりするのは表情筋と一緒に皮膚が動く事が原因であり、よく笑う人の目尻や眉が下がり目元の形が変わるのは表情筋が癖づけられ変形するのが原因である。

老化すると表情筋がゆるみ目元が弛んでくる。特に前頭筋との連結が弱い眼輪筋の目尻の部分は弛みやすく、目の形が加齢していくとたれ目

になっていく。

ゆえに、目元のたるみやシワは表情筋の変化が大きな原因であると考えられる。

5 ②『テープリフティング』… ストレッチ・テープ等で目元や他の部分の皮膚をリフティングすると表情筋も一緒にリフティングされる。その結果、表情筋がリフティングされた方向にクセづけられ変形する。

10 肌に近い伸縮性と通気性を持ったストレッチテープで老化して垂れ下がった目元やその他の部分の皮膚を効果的にリフティングすると、皮膚の下の表情筋や筋膜もリフティングされる。長時間（主に就寝時）リフティングし、それを繰り返すと筋肉や筋膜が移動し、固定化していく。

弛んで下がってきた目元や口元などがリフティングされ、皮膚と皮下組織が引き上がった結果、目元のたるみが改善され、シワも薄くなる。

15 ③『皮膚への保湿』… ストレッチテープでリフティングした部分に保湿成分や収斂剤を含んだ美容液やパックをすると、シワになった部分の角質化した皮膚を柔らかくし、シワを浅くする効果が促進される。

④『新陳代謝によるタンパク質の固定化（形状記憶）』… 人間の体は新陳代謝により細胞が入れ替わる。新陳代謝が行われる期間（皮膚は約1ヶ月、その他の細胞は約6ヶ月）リフティングし癖づける事によって形状を固定化していく。

20 タンパク質には形状を記憶する能力がある。新陳代謝により細胞が入れ替わっても同じ形状が維持できる仕組みを持っている。それは体全体にいえることで、皮膚の場合は一度できたシワなども形状を記憶してしまい、細胞が入れ替わってもシワはそのままとなる。しかし、シワを引っ張ってのばした状態を作つてあげると、タンパク質はその状態を次の25 細胞へ伝達し、シワがとれた状態の皮膚を作り上げる。

⑤『肌は夜作られる』… 肌は就寝中にもっとも新陳代謝が活発になる。

これは起きているときは体の他の部分（脳や筋肉、内臓など）の新陳代謝へ多くエネルギーがまわるからである。就寝中はそれらの機能が低下するので、肌に多く新陳代謝のためのエネルギーが回る。その代謝の多い夜に肌をリフトし固定し、さらに保湿を持つパックで皮膚を育成することはたるみやシワ取りには非常に効果的である。

⑥『応用』… 上記の通り表情筋を移動させるメカニズムを利用すると、たるみの改善だけでなく、テープでストレッチする事により目元などの形を変える事ができる。

10 (2) 従来の方法との違い

①『化粧品のシワ取り』… 化粧品のシワ取りは肌に張りを与える事でミクロのシワを取とることができる。しかし老化によるたるみが原因の目にハッキリ見える目尻などのシワはとれない。

15 ②『美容整形シワ取り』… 各種美容整形手術を行ってシワをとる場合、即効性はあるが、成功・不成功のリスクもあり、さらに、費用も高いので一般の人がすすんで手術を受けるケースは少ないので現状である。

本発明のテープリフティング整形法は、以下に説明される。

(3) テープリフティング整形の方法

①就寝前、テープを貼る前に保湿・収斂パックを適量取り、顔全体に薄くのばす。このとき、強くこすったり、すり込んだりしてはいけない。化粧水、美容液のスキンケアを行った後、べとつかなくなってから、目尻と眉の上、片側2～3カ所を指で引っ張り上げ、たるみやシワがとれる位置と方向を確認してから、テープを5mm程度引っ張り貼り付け、弛んだ皮膚をリフティングする。

25 テープの両端を両手で均一に120%程度引っ張り貼り付ける。強く

引っ張りすぎると肌に負担がかかり肌荒れの原因になる。

すなわち、肌に近い伸縮性と通気性を持った特殊素材ウレタン不織布を基材としたストレッチテープを使用し、目元に保湿・収斂パックを薄く塗り、その後目元の弛んだ皮膚を引っ張り上げシワを伸ばし固定する。

5 『目から上をリフトアップ』…皮膚が老化すると弛んで下がってくる。これが目元のシワの大きな原因となる。ストレッチ・テープを目尻の上、眉毛の上、額の中央に皺の状況に合わせて4～5枚貼り付ける。

そして、これを就寝前に行い、翌朝上記ストレッチ・テープを剥がし、保湿・収斂パックを洗い流す。これを毎日続ける。このようにすると、10 徐々にシワがとれる。なお、この場合、肌への負担を軽減させるため、テープの貼る位置をずらして使用する方がよい。このようにして連続して使用すると、タンパク質の形状記憶効果でシワが少しづつ伸びてくる。

②リフトしたシワの部分に美容液やパックを付ける。

③起床後はすみやかにテープをはがす。

15 ④『使用期間』… 正常な肌は、基底層で生まれた表皮細胞が角質層に達し最終的に垢となってはがれ落ちる周期が約28日間といわれている。たるみやシワ取り効果は1ヶ月後から徐々に現れる。しかし、表層のみならず皮膚の下層まで入れ替わるには時間要するので、3～6月は継続使用する。

20 ⑤たるみやシワがとれた後も週に2～3回程度使用して、状態を維持する。

産業の利用可能性

この発明のストレッチ・テープは、コストと肉体への負担の大きい手術等をすることなく、安価なストレッチ・テープを長期間、根気よく使

用することにより、目や鼻の整形を簡便に行える。

また、この発明のストレッチ・テープは、コストと肉体への負担の大きい手術等をすることなく、安価なストレッチ・テープを長期間、根気よく使用することにより、目元や頬等の皺取り美容・整形を簡便に行え

5 る。

請求の範囲

1. 目と目の間の目頭に近接して、もしくは目の横の目尻に近接して貼り付けられ、瞼の皮膚を伸張することにより目を切れ長にパッチリと整形することを特徴とする瞼整形用ストレッチ・テープ。
5
2. 前記テープが目頭もしくは目尻を指し示すような角度を付けられていることを特徴とする前記請求項1記載の瞼整形用ストレッチ・テープ。
3. 前記テープが巾5～15mm、長さ15～30mmであり、前記角度が20～60度であることを特徴とする前記請求項2記載の瞼整形用ス
10 トレッチ・テープ。
4. 逆U字形状、もしくは逆V字形状をなし、該逆U字形状、もしくは逆V字形状の頂部を目と目の間の鼻上部に、該逆U字形状、もしくは逆V字形状の両脚部を鼻中腹部の両側部にして貼り付けることにより、鼻中腹部を頭部方向に引っ張ることを特徴とする鼻整形用ストレッチ・テ
15 ープ。
5. 前記テープの巾5～20mm、前記逆U字、もしくは逆V字形状の1辺の長さが15～35mmであり、前記前記逆U字、もしくは逆V字形状の開き角度が0～120度であることを特徴とする前記請求項4記載の鼻整形用ストレッチ・テープ。
- 20 6. 略三角形状をなし、該三角形状の中心を小鼻上部に貼り付けることにより、小鼻の軟骨を刺激し、小鼻を小さくすることを特徴とする小鼻整形用ストレッチ・テープ。
7. 前記テープの巾5～40mm、前記三角形状の底辺の長さが35～
25 50mmであり、前記三角形状の頂点の開き角度が0～120度であることを特徴とする前記請求項6記載の小鼻整形用ストレッチ・テープ。

8. 皮膚の表面に貼り、皮膚の表面の皺を引っ張って伸ばし固定するストレッチ・テープにおいて、

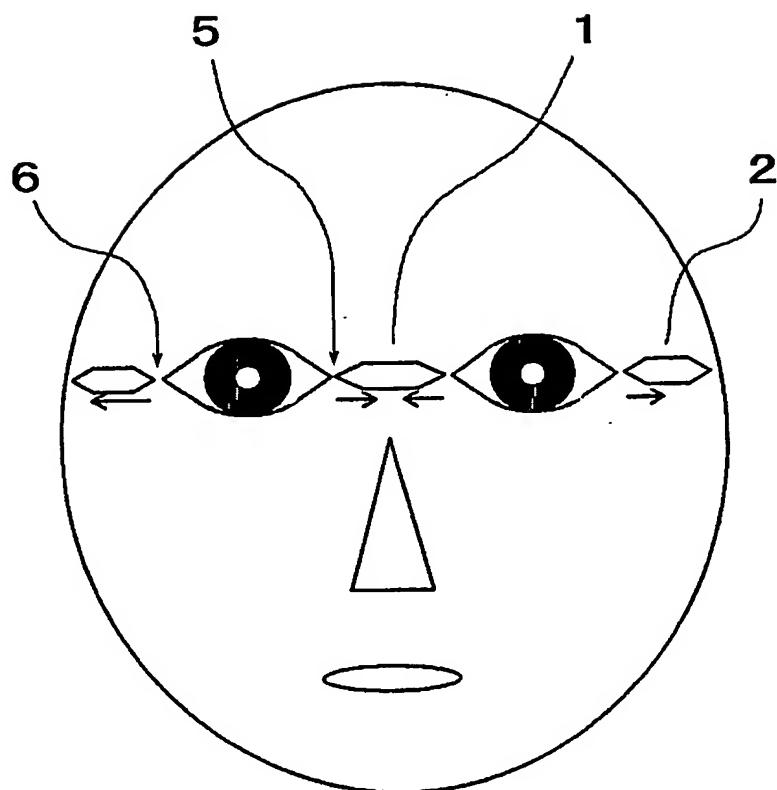
該テープは、ストレッチ性のある基材に粘着材を 35 g/m^2 以上の厚塗りで塗布したことを特徴とする美容・整形用ストレッチ・テープ。

5 9. 前記テープは、ウレタン不織布からなる基材にアクリル系粘着材を 35 g/m^2 以上の厚塗りで塗布したことを特徴とする前記請求項 8 記載の美容・整形用ストレッチ・テープ。

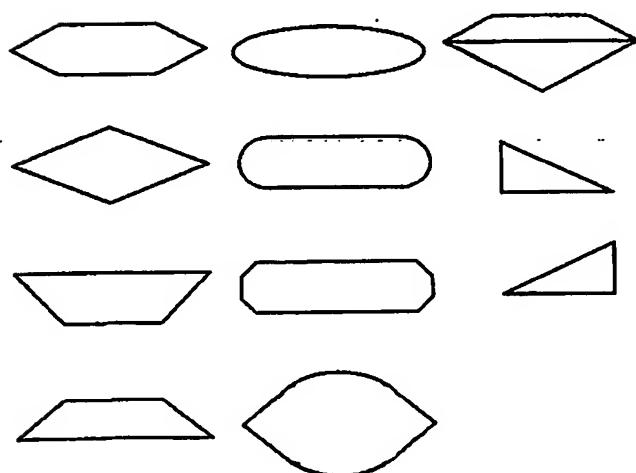
10. 前記テープが巾及び長さが $15 \sim 50 \text{ mm}$ の大きさであって、該テープの皮膚を引っ張る端面の形状にアールを付けたことを特徴とする前記請求項 8 または 9 記載の美容・整形用ストレッチ・テープ。

11. 前記請求項 8 または 9 記載のテープを用い、就寝時に、保湿・収斂パックを顔全体に塗ると共に、目元、瞼の上、頬等において皮膚の皺を該皺の周辺で引っ張って、伸ばし固定して上記テープを貼り、上記保湿・収斂パックを翌日洗い流すことにより皮膚の皺を取ることを特徴とする美容・整形方法。

1/10

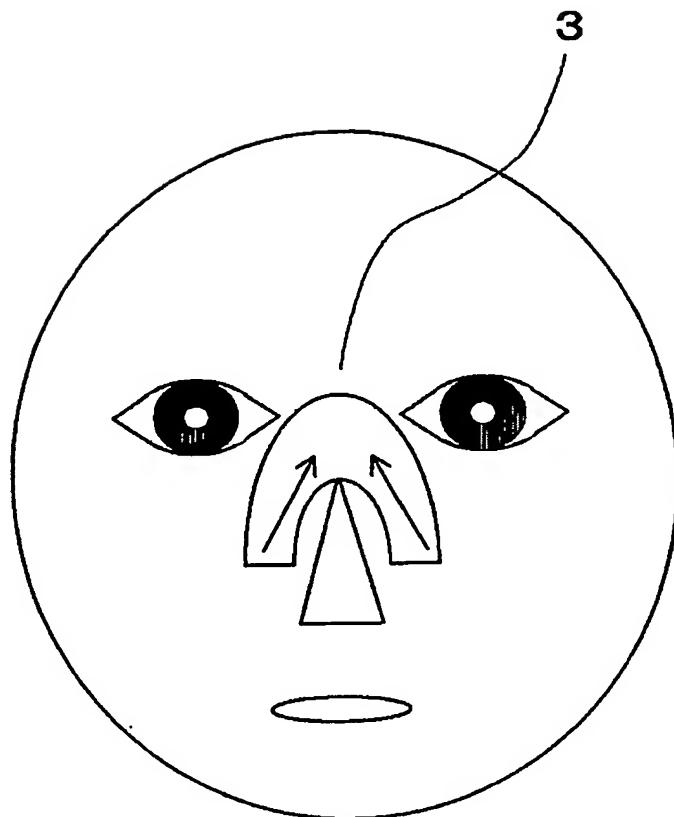


第1図

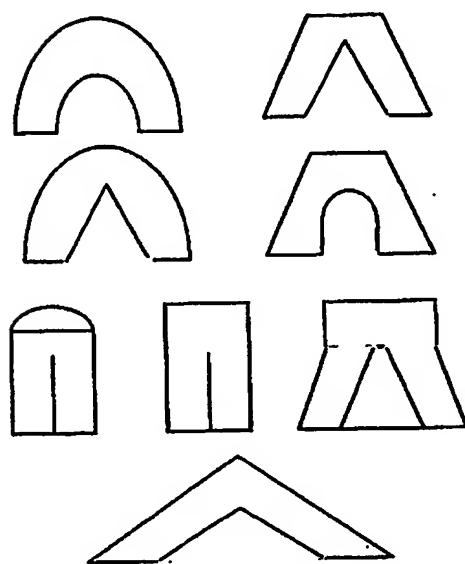


第2図

2/10

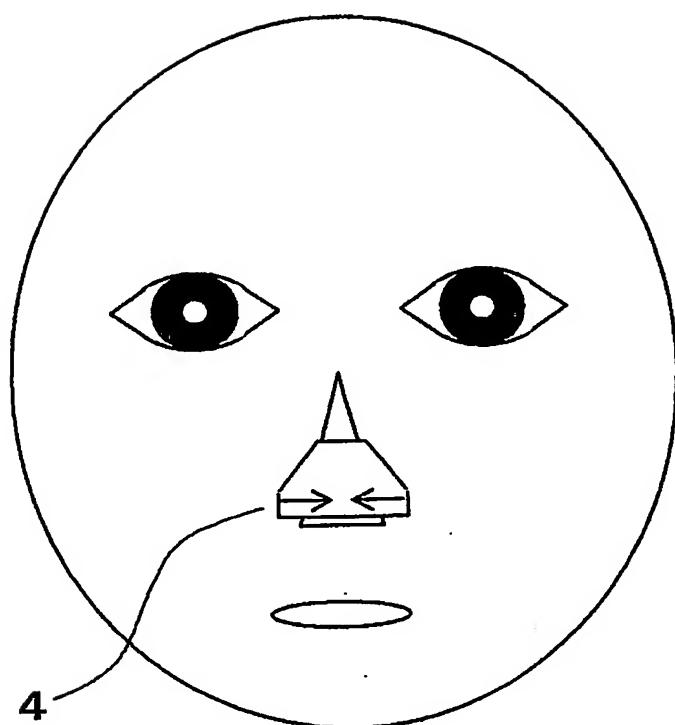


第3図

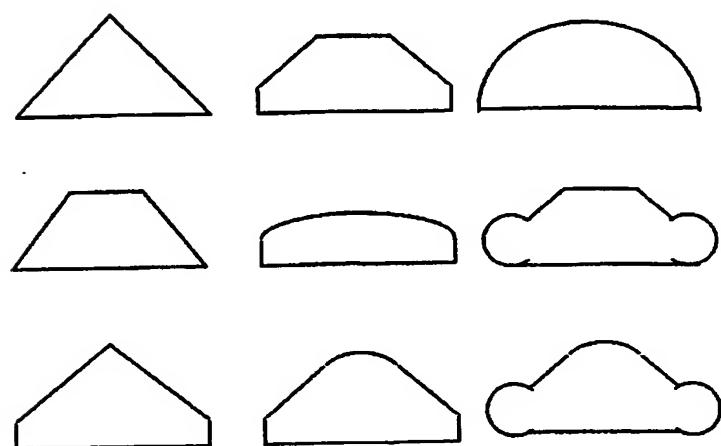


第4図

3/10

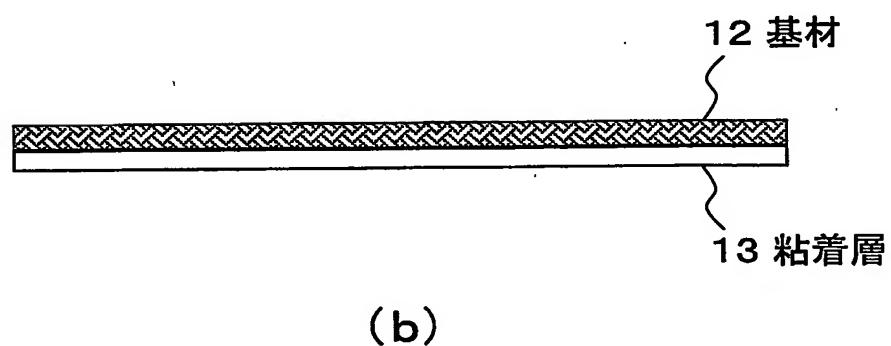
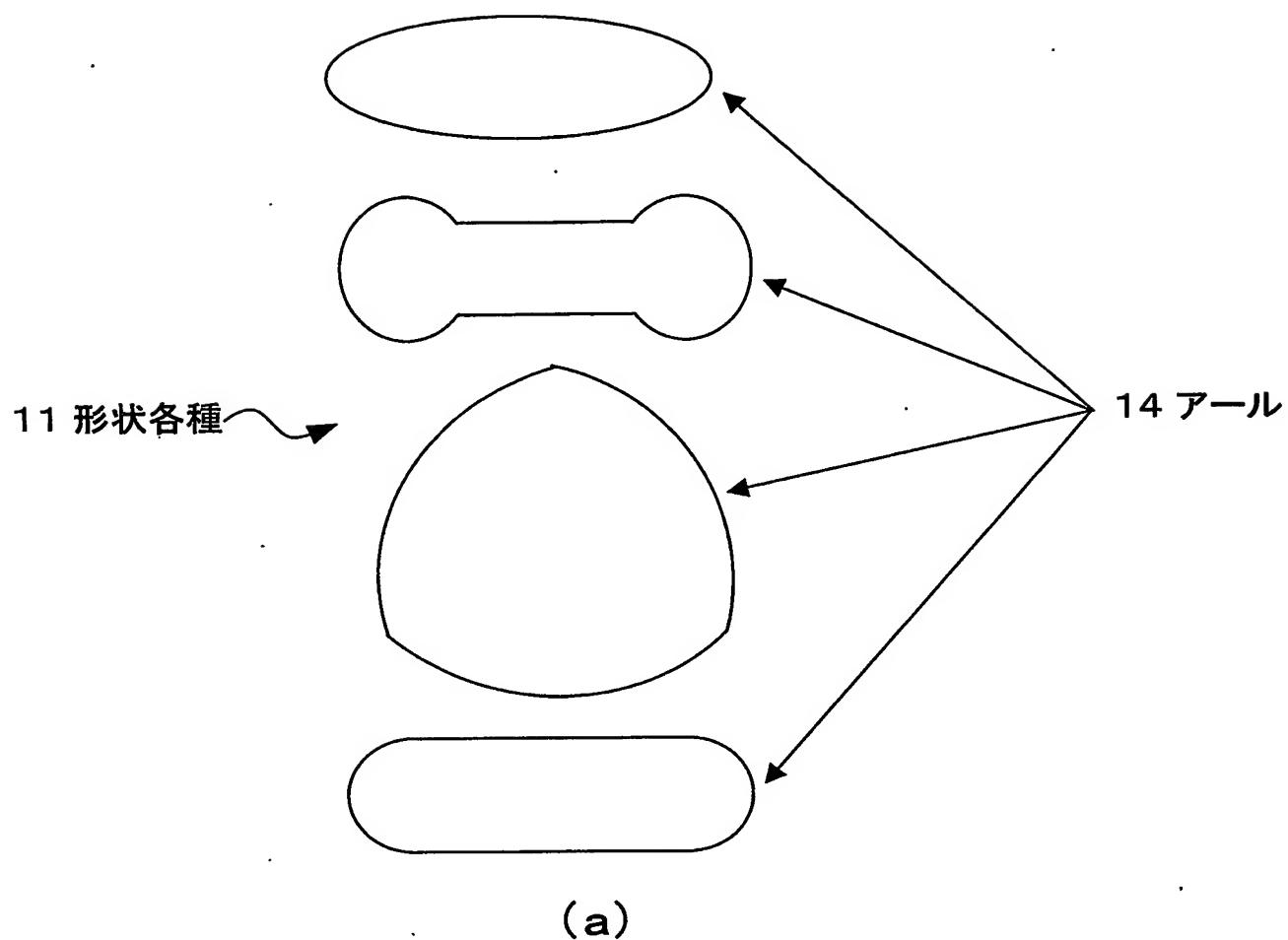


第5図



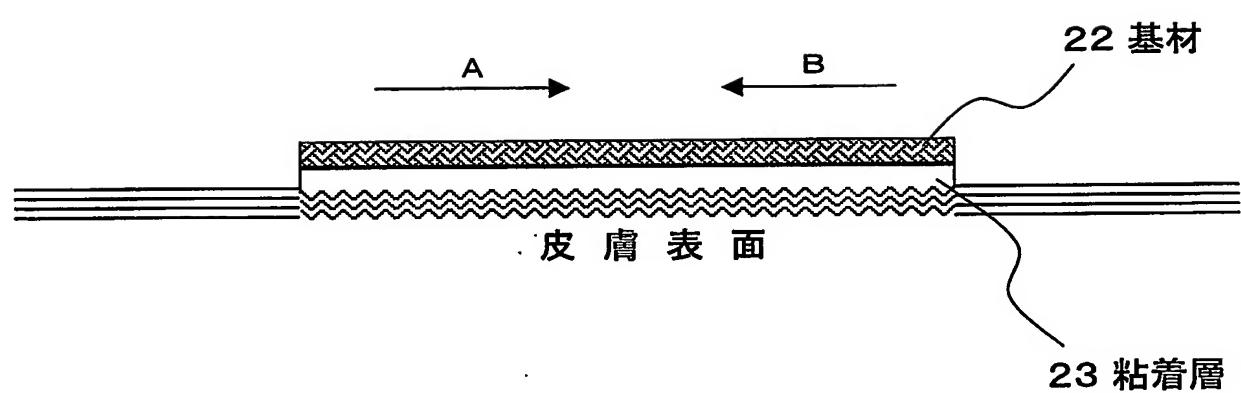
第6図

4/10



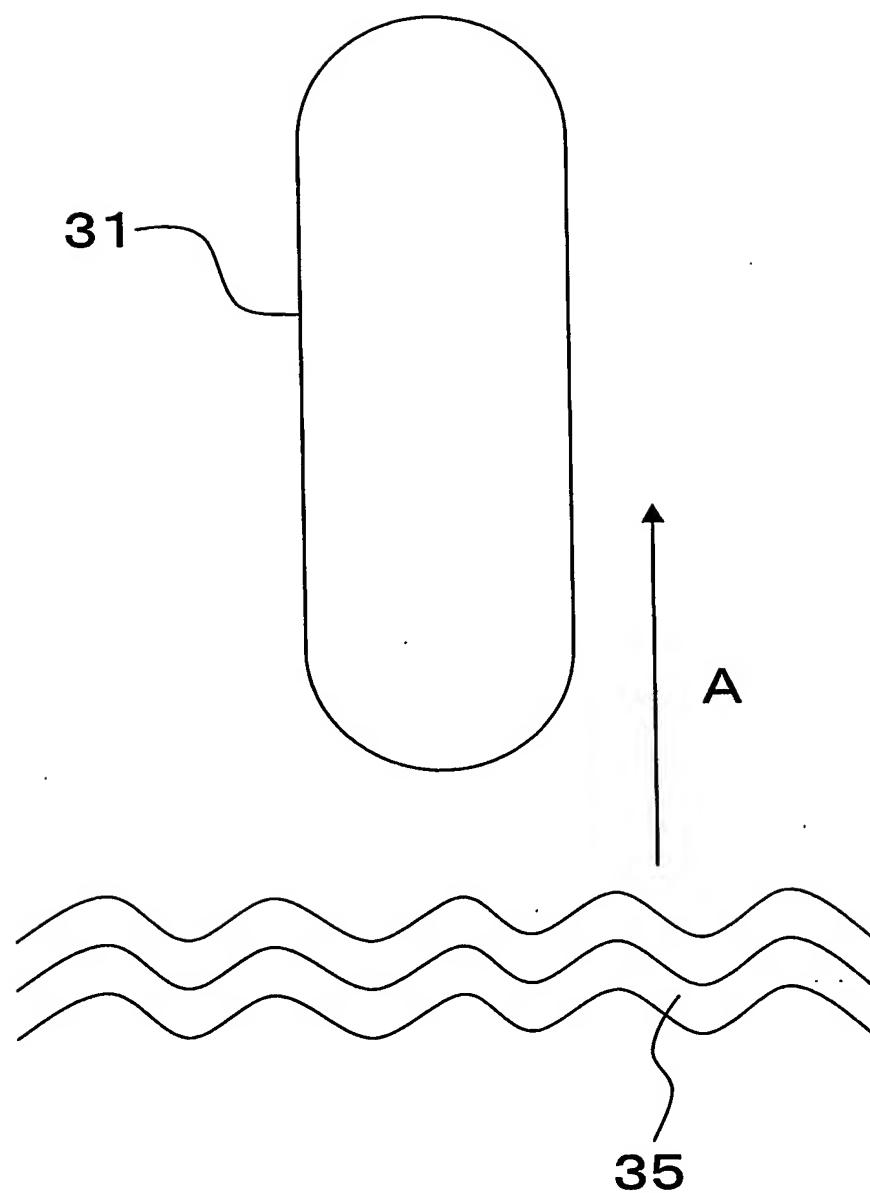
第7図

5/10



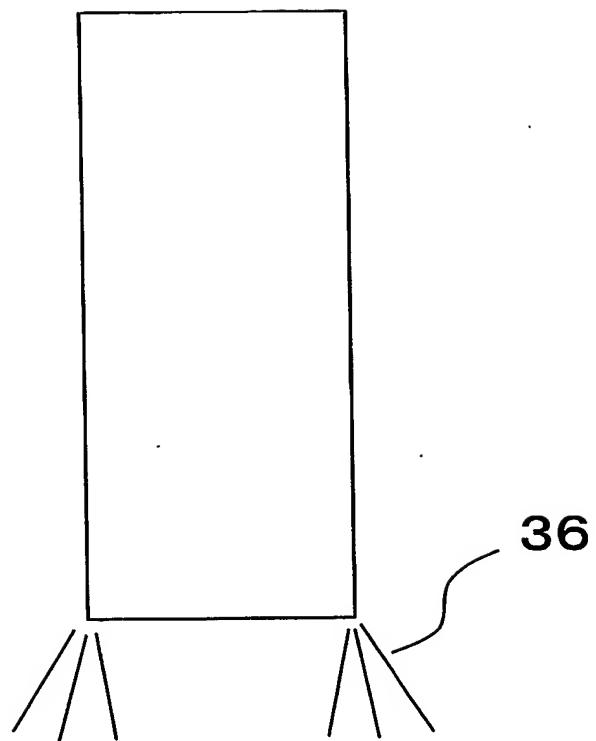
第8図

6/10



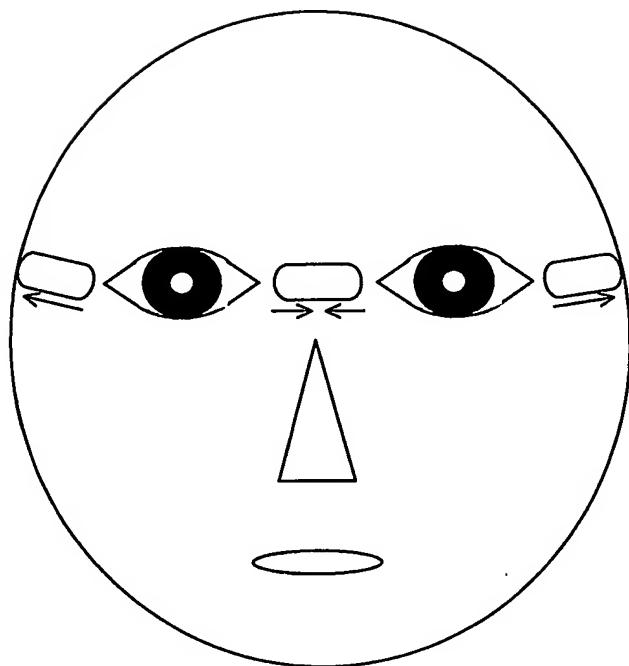
第9図

7/10

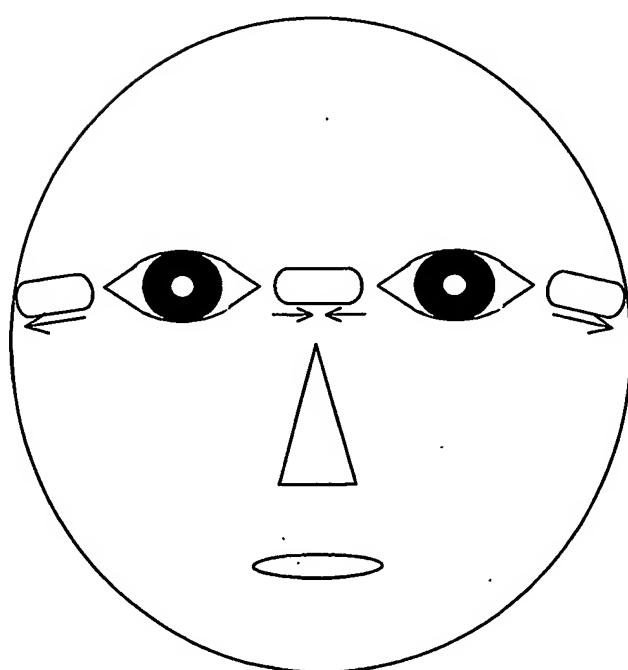


第10図

8/10

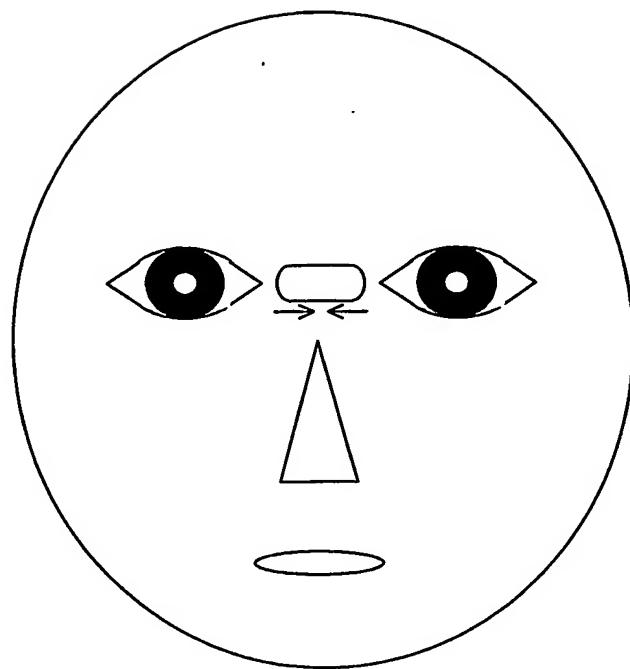


第11図

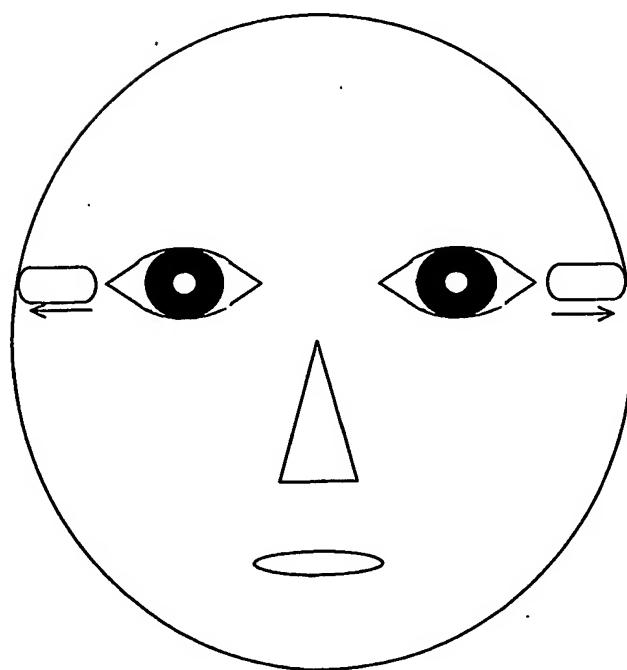


第12図

9/10

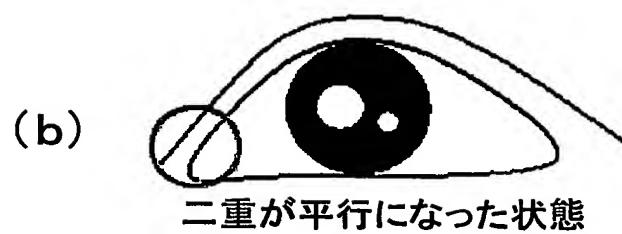
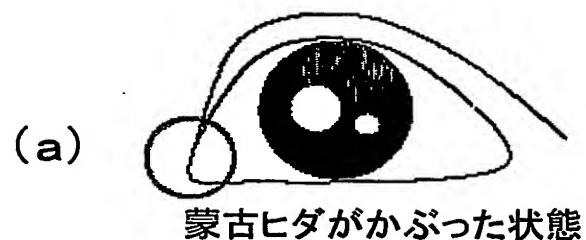


第13図



第14図

10/10



第15図

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/000196

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl' A45D44/22, A61F13/02

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl' A45D44/22, A61F13/02

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2004
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2004	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 3024084 U (Hiroko KAMIMURA), 17 May, 1996 (17.05.96), Full text; Figs. 1 to 3 (Family: none)	1, 2 3-10
Y	JP 3049506 U (JO Cosmetics Kabushiki Kaisha), 19 June, 1998 (19.06.98), Page 7, line 28 to page 8, line 9; Figs. 2 to 13 (Family: none)	4, 5, 9, 10
Y	JP 41-17146 Y1 (Keiko TSUNEIZUMI), 09 August, 1966 (09.08.66), Page 1, right column, lines 16 to 23; Fig. 1 (Family: none)	6, 7

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:		
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"T"	later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"X"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"Y"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	"&"	document member of the same patent family
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed		

Date of the actual completion of the international search
20 April, 2004 (20.04.04)Date of mailing of the international search report
11 May, 2004 (11.05.04)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/000196

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 10-194925 A (Ryuichi UTSUGI), 28 July, 1998 (28.07.98), Page 3, column 4, lines 24 to 28; Fig. 1 (Family: none)	8, 9, 10
A	US 2001862 A (EDITH CARTER BATTEY), 21 May, 1935 (21.05.35), Full text; Figs. 1 to 6 (Family: none)	1-10
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 132936/1974 (Laid-open No. 60365/1976) (Seiko MOCHIZUKI), 12 May, 1976 (12.05.76), Full text; Figs. 1 to 4 (Family: none)	1-10

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/000196

Box No. II Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 2 of first sheet)

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. Claims Nos.: 11

because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:

Claim 11 pertains to methods for treatment of the human body by therapy and thus relates to a subject matter which this International Searching Authority is not required, under the provisions of Article 17(2)(a)(i) of the PCT and Rule 39.1(iv) of the Regulations under the PCT, to search.

2. Claims Nos.:

because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:

3. Claims Nos.:

because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box No. III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

1. As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest

The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.

No protest accompanied the payment of additional search fees.

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C1' A45D 44/22, A61F 13/02

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C1' A45D 44/22, A61F 13/02

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2004年
日本国実用新案登録公報	1996-2004年
日本国登録実用新案公報	1994-2004年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP 3024084 U (上村浩子) 1996. 05. 17, 全文, 第1-3図 (ファミリーなし)	1, 2 3-10
Y	JP 3049506 U (ジェイオーコスメティックス株式会 社) 1998. 06. 19, 第7頁第28行~第8頁第9行, 第2 -13図 (ファミリーなし)	4, 5, 9, 10

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)
- 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

20. 04. 2004

国際調査報告の発送日

11. 5. 2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

岩田 洋一

3R 3218

電話番号 03-3581-1101 内線 3384

C (続き) . 関連すると認められる文献		関連する 請求の範囲の番号
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
Y	JP 41-17146 Y1 (常泉桂子) 1966.08.09, 第1頁右欄第16-23行, 第1図 (ファミリーなし)	6, 7
Y	JP 10-194925 A (宇津木龍一) 1998.07.28, 第3頁第4欄第24-28行, 第1図 (ファミリーなし)	8, 9, 10
A	US 2001862 A (EDITH CARTER BATT EY) 1935.05.21, 全文, 第1-6図 (ファミリーな し)	1-10
A	日本国実用新案登録出願49-132936号 (日本国実用新案登 録出願公開51-60365号) の願書に添付した明細書及び図面 の内容を記録したマイクロフィルム (望月清子) 1976.05.12, 全文, 第1-4図 (ファミリーなし)	1-10

第II欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見（第1ページの2の続き）

法第8条第3項（PCT17条(2)(a)）の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. 請求の範囲 11 は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。
つまり、
請求の範囲 11 は、人の身体の治療による処置方法であり、PCT17条(2)(a)(i) 及びPCT規則39.1(iv)の規定により、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。
2. 請求の範囲 は、有意義な国際調査をできる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. 請求の範囲 は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第III欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第1ページの3の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

1. 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかつた。
3. 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかつたので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかつたので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあつた。
 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかつた。